

和顔愛語

子どもに「感動」を与える学校

教職員が「敏働」を共有する学校

地域・保護者、教職員の「汗動」にささえられた学校



令和4年5月12日 校長 発行

みんなで読む、毎日読む、好きな本を読む、静かに読む！

朝、学校を回って「素晴らしいな」と思うことに一つに、どの学級も朝読書を、シーンとした中、集中して取り組んでいることです。図書係からも提案されていますが、毎日10分ずつ取り組むと1週間で50分、1年間で約2,000分になります。朝読書の意義について、私なりに思っていることをお伝えしたいと思います。

かなり前の話になりますが、「朝の読書が奇跡を生んだ」という本が出版されました。その中に、ある高校が朝読書を始めるようになってから生徒の生活のあり方や学力が大きく変わってきたことが書かれていました。今、時代の流れから、読書をする機会が減り、読書離れも進んでいます。日常生活の中に、携帯電話、スマホ、テレビ、ゲーム、パソコンなど気軽に私たちの興味・関心を引きつやすやすいものが満ちあふれているのもその原因でしょう。例えば、テレビなどはスイッチを入れるだけで何もしなくても私たちに次々と与えてくれます。これほど楽なものはありません。読書は自分で読もうとする意志がなければできません。読み始めるまでは面倒に感じがちです。このように減ってしまった読書の体験を取り戻すのが朝読書です。

読書をすることで、たくさんの知恵や知識、感動などが得られます。いろいろな感じ方や考え方に触れることで、私たちの世界や心を広く豊かにすることができます。また、時には自分の考え方や生き方にまで影響を及ぼすような本との出会いもあるかもしれません。このように本は、私たちに素晴らしい恩恵を与えてくれます。

また、読書を続けていくことによって、文章を理解する力が高まってきます。実はこれが学力の基本になります。学力を高めるという意味では読書は一見遠回りのように思えますが、本（文章）を読むことで頭の中で創造したり、筋道を立てて考えたりすることは思考力を高める訓練にもなるのです。

さらに、優れた文章に数多く触れることは、自然に私たちの表現力を高めることにつながっていきます。「本を読むことは、『見えない学力』を育てる」という人もいます。

朝読書で大切なこと

- ①時間は8:25～8:35（10分間）
朝来たらすぐに読んでもOK
- ②『静かな環境』が必要 私語、立ち歩きは×
- ③好きな本・興味のある本でよい
- ④みんなで読む 先生も読む **寝かせない**
- ⑤家読（うちどく）も進める

